**建部　綾足 （たけべ・あやたり）**

**１、プロフィール**

俳人・国学者・読本作者。伊勢派金沢の希因門に入り江戸で涼袋号で宗匠。国学を学び古代の片歌を提唱。晩年『本朝水滸伝』他の読本を発表し、滝沢馬琴などの先行者となる。

＜生没＞

1719（享保４）年～1774（安永２）年３月18日

＜代表作＞

片歌論『片歌二夜問答』

俳論『俳諧南北新話』

読本『本朝水滸伝』

＜青森との関わり＞

弘前に生まれたが嫂との事で郷を出てからは津軽に戻らなかった。彼の絵と作品の若干は県内に見ることができる。

**２、作家解説**

享保４年弘前藩家老喜多村政方の次男として江戸に生れる。同３年嫂（あによめ）そねと不倫の恋により嫂は離縁久域（ひさむら）は出奔。元文４年秋田比内より京に行き野坡に入門。秋比内に帰る。寛保元年駒込吉祥寺に住む。延享元年冬西国行脚に出、尾張を経、京に入る。延享２年金沢の暮柳舎希因に入門。俳号を葛鼠（かっそ）から都因とする。同３年師と不仲となり伊勢に行き梅路・鳥酔と逢う。翌年浅草金竜山下に吸露庵を結び号を涼袋とする。

寛永２年４月帰江麦水らと庵に会す。秋長崎に向けて京に入る。同３年長崎芝山亭画を熊斐らに学ぶ。宝暦元年大坂に帰着。同２年江戸に下り再び金竜山に庵を結ぶ。同４年中津藩奥平候の命で画修業のため長崎に行く。師は清人費漢源。同６年江戸に帰り第３次吸露庵を結ぶ。同７年目を病み奥平藩邸に療養。同10年９月神田弁慶橋辺に新庵を結ぶ。同12年『寒葉斎画譜』刊行。同13年『片歌草のはり道』刊。９月賀茂真淵に入門。片歌を提起、片歌では綾足号を使う。明和元年『片歌あさふすま』刊。５月３月上毛を素輪と遊歴。明和５年三条堀川に住む。２月『西山物語』刊。３月妻子と共に大和伊勢に遊ぶ。秋『伊勢物語』を講じる。同７年伊勢能褒野に倭建命顕彰の片歌碑をたてる。花山院常雅から「片歌道主」の称号を賜る。花山院娘と松前候の婚儀に関与。８年江戸から京に帰り下京衣棚押小路下ル辺に住む。安永２年『本朝水滸伝』前編刊。５月江戸に入り奥平候邸で歌会。画を教え万葉集を講義。同３年２月桐生から熊谷の医師三浦宅に移り、療養。３月江戸石町に着く。３月18日没す。江戸向島弘福寺に葬る。法名「知足院即心是空居士」

**３、資料紹介**

〇『紀行』上中下

図書

宝暦年間

青森県立図書館蔵自筆稿本。題簽に建凌岱自筆とあり各巻副題がある。旧蔵は群馬富岡坂本家。同家の先祖は綾足の門人麦竜舎雲郎である。全集の解題によると、諸種の草稿がありそれを綾足が宝暦８年ごろ整理・編集して清書したものと推定される、とある。